

受章・表彰

◆瑞宝双光章

高田壽太郎さん（西方
（元公立学校長）



◆日本水泳連盟 優秀団体表彰

大島郡水泳連盟



▲大島郡水泳連盟を代表して盾を受け取った竹本正博副会長㊦と江本正理事長㊦

36 周防大島の文化財

蘭学者青木周弼・研蔵兄弟の生誕地（和田）

青木兄弟は、周防国大島郡和田村の医家に生まれる。周弼は、文化7年（1810）頃から近くの大浜三郎と埴生善左衛門の寺子屋で学ぶ。やがて近郷の人々から神童と称せられる。彼は文化11年、12歳の時に、父玄棟の旧師である三田尻（防府）在住の能美友庵の学僕（師の家で働きながら学ぶ）になり、漢方医学を学ぶ。

後に江戸の坪井信道、宇田川玄真に蘭学を学び、長崎でシーボルトに師事する。長崎遊学後帰国し、天保11年（1840）萩藩学館南苑医学所の蘭学教授および兵学校の教授となる。嘉永2年（1849）牛痘伝来を聞き、弟の研蔵を長崎に派遣し、種痘技術を習得させ藩内に実施する。毛利敬親の信任を得て、医療、衛生事業の発展に尽くす。著書には、「察病論」や、緒方洪庵・伊藤南洋らと共訳した「袖珍内外方叢」などがある。洪庵の適塾の門人には村田蔵六（大村益次郎）らがいる。

研蔵は、周弼の弟で後に青木家を継ぐ。兄と同様に能美塾で医術を学ぶ。後に伊藤玄朴の塾で教授を務め、弘化2年（1845）長州藩医となる。上述のように、嘉永2年に兄から種痘伝習の命を受けて長崎に行き、シーボルト等に学び、種苗を持ち帰り、はじめて藩内で種痘を実施された。周弼没後、元治元年（1864）に藩主の御側医に抜擢され、さらに明治2年（1869）、明治天皇の大典医に任じられる。

青木家は藁葺であったと伝えられているが、いつ頃家屋が解体されたかは不明で、現在はミカン畑となっており、その中に唯一の井戸が史跡として残っている。

《周防大島町文化財保護審議会 会長 尾野榮明》



▲今はミカン畑となっている青木周弼・研蔵兄弟の生誕地



▲唯一残る井戸が二人が暮らした時代を伝えている

令和元年度で周防大島町内にある指定文化財38件の紹介は終了しました。しかし、未指定ながらも魅力的な文化財が町内にはまだまだたくさんあります。そこで本年度からはそれらの大切な文化財を町民の皆さんと共有したいと思い、引き続き連載してまいります。